

第4回甲賀市学校再編審議会 議事録

会議の概要報告	
1. 会議の名称	第4回甲賀市学校再編審議会
2. 開催日時	令和6年（2024年）11月5日（火） 14:00～16:00
3. 開催場所	甲賀市役所 4階 教育委員会室
4. 議題	・第3回審議会の議事録確認について ・第2次甲賀市小中学校再編計画（たたき台）について
5. 公開または 非公開の別	公開
6. 出席者	西川信廣委員（会長）、大林委員（副会長）、中村委員、井口委員、福永委員、藤河委員、藤岡委員、八木委員
7. 傍聴者数	4人
8. 会議資料	・次第 ・第2次甲賀市小中学校再編計画（たたき台）について 【資料1】【資料2】【資料3】
9. 議事の結果概要	1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 審議事項 （1）第3回審議会の議事録（案）について 事務局：議事録は概要とし、事務局が作成したものを各委員が内容確認いただき、修正等あれば11/12午前中までに事務局まで連絡いただきたい。 会長：訂正内容が妥当かどうかの判断はどうするのか。 事務局：発言された方へ確認し、内容が変わるようであれば、会長、副会長にも確認をいただくことを考えている。 会長：いつ頃市のホームページに掲載されるのか。 事務局：軽微な変更であれば、来週中に掲載する。 （2）第2次甲賀市小中学校再編計画（たたき台）について 《事務局説明》 会長：資料2の8ページ、「4. 望ましい小学校・中学校の実現に向けて考慮すべきこと」について、甲賀市がめざす学校の実現に向けて抽象的すぎではないか。 委員：総論としてはわかる。各論としてのイメージが進まない。次へのアクションが起こりにくいと思う。決して反対意見が出るものではない。 会長：例えば4つ目に、「15歳の子ども像を共有し、小中学校の全教職員が地域と協働できる学校」というのを入れてはどうか。

	委員：15歳の子どもの姿のイメージを低学年の親も持てるということとはすごく大事なことだと思う。 会長：小中一貫教育や学校再編の議論なので、統廃合で終わっては意味がない。甲賀市の新しい学校を作るイメージに、「15歳の子どもを育てる」ことを入れることが望ましい小中学校であると感じた。 委員：具体的にターゲットを絞っていることが分かりやすく良いと思う。今までなかった考え方かもしれないなので、そこをどう説明できるのか。 会長：15歳を見通した小学校教育をしていかないといけない。保護者もこれからそういう発想は必要。 委員：小学校の教師の良いところもあるが、中学3年生、15歳のイメージをほとんど持っていない。今はわからないが、中学校入試に対する関心が小学校の先生にはなかった。1小1中で小中の連携を行っていたが、道徳や生活習慣くらいの協働レベルで、教育内容まではできていなかった。しかし、中学校に入学する時、小学生の抵抗はほとんどなかった。 委員：学校教育の指針にも9年間を見越した教育はうたわれているので、15歳の子ども像を共有するという言葉はあった方がよい。 会長：資料2の8ページ「地域に根差した小学校区」について、これまでの話の中で、小学校区ではなく中学校区を地域としてとらえるという意見があったが、小学校区としている意図はあるのか。 事務局：話の内容として、小学校区でも中学校区でもない地域に根差した学校区という言い方が良いのではと感じていたが、一旦修正せずに小学校区のままとした。意図は特にない。 会長：「小・中学校区」とすればどちらでも使えるので、どうか。 会長：今甲賀市は全学校に学校運営協議会はあるのか。 事務局：学校運営協議会はあるが、全学校ではない。 会長：いくつあるのか。 事務局：小学校が8校、中学校が1校。 会長：地域との連携をさらに進めていく必要があるという言葉はこれ以上強く書けないが、この審議会として、学校運営協議会の全校設置は目標にあってもよいと思う。極小規模校の学校運営協議会は中学校区で学校運営協議会を設置し、〇〇小学校部会という位置づけをしていくことが必然と思う。児童数が1桁になってくるとその学校で学校運営協議会は難しい。 会長：学校運営協議会の設置に関する具体的な目標設定はあるのか。 事務局：令和8年度に全校設置の目標を設定している。現時点で14校が未設置となっており、令和7年で10校、令和8年に4校
--	---

	を立ち上げる予定となっている。 会長：設置に際し、教育委員会はどのような支援をしているのか。 事務局：滋賀県において、アドバイザー制度があるので、その要請や市においても研修を行っている。 会長：資料２の５ページ「地域の参画」について、学校運営協議会を設置した公立学校をコミュニティスクールと言うので、コミュニティスクールの開設になるのでは。 会長：学校運営協議会と地域学校協働活動の違いは皆さん承知されているか。地域学校協働活動は社会教育関係で、登下校の見守りや花壇の整備など学校の外側の仕事をする。学校運営協議会は学校の中側に関わるもので、本当は人事にも関わることができる。 会長：一般的にはメリット・デメリットという言葉で通じることではあるが、使いにくい。小規模校でもうまく運用すれば、成果に繋がるし、学級で３５人いてもうまく運用できなければ、成果に繋がらない。本当は学校教育ではメリット・デメリットという言葉は適切ではない。 会長：甲賀市の小学校では複式学級を導入している学校はあったか。 事務局：複式学級の対象となる学校はあるが、複式改善しているので、導入している学校はない。 会長：小規模教育と小規模校のちがい。小規模校で廃校となったなら地域の拠点がなくなるということが、小規模校統廃合に対する反対意見。小規模校の教育的な効果を、人間関係が限定されるという教育的課題が大きいことを説明すべき。 会長：資料３の学校維持管理費及び人件費を出しているが、児童生徒一人当たりの金額が必要ではないか。小規模校の方が支出が少ないということになる。 会長：甲賀市は市費の教職員はいるのか。 事務局：学校支援員や複式を改善する教員などが市費となる。 委員：複式改善というのは、制度では複式学級になるけれど、そこに市がお金を出して教員を配置しているということ？ 委員：子ども１人であっても、担任が１人つくように、甲賀市は手厚くしている。 会長：資料提示をする際に、市費や県費の内容を説明できるようにしておくとい。それよりも児童一人あたりの金額を出した方がわかりやすい。 事務局：資料には掲載していなが、適正規模校であれば、約５５万円、小規模校は約７６万円、極小規模校は約２４０万円となる。
--	--

	委員：なぜ市費を出してまで複式を改善するのか。 事務局：複式の授業というのは、一人の教員が2学年を教えることは難しく、市費を立てて各学年単級での教育を進めている。子どもの学習を保障していく観点から複式を解消している。 委員：へき地校にいた時に、複式をしている学校の視察に行ったが、やはり厳しい。2学年同時に教えることができないので、1学年ずつ教える。実質教員が子供とのやりとりをする時間が半分になる。同じカリキュラムを半分の時間で教えることはかなり厳しい。それを避けるために甲賀市では市費で教員をつけている。複式は教員の力量も必要だが、物理的にも厳しい。 委員：極端に言うと、教室についたてを立てて、それぞれ渡り歩く感じになる。甲賀市では県の複式改善はもらっているのか。 事務局：一部県費をもらっている。 会長：児童一人あたりの金額は出した方がよいか。 委員：大事なことなので出した方がよい。 委員：児童数の見込みを令和6年と令和12年で比較しているが、実はこの減り方がそれまでの減り方と比べ極端だと思う。令和6年からではなく、令和6年までの部分も含め、緩やかな減り方から急激に減っていることを説明した方が良いのではないか。 事務局：資料3の2枚目に平成26年からの児童数の推移をグラフで示している。 委員：先ほどの児童数の補足になるが、単に数が減るというよりも、大きな地域なのに2、3人しかいないなど、それぞれの地域においての減り方を意識し、危機感を地域に持っていただく必要があると思っている。 会長：この数字を見て、甲賀市の方は納得されますか？甲南第1、第2は減少率が10%台であるのに、第3小だけ47%と突出して高い。どういう理由ですか？ 委員：地理的に中心地から離れていることが要因と思う。もともとの学校規模も小さい。 委員：大原小学校も人数は減っているが、駅前結構増えている。しかし、駅から離れているところが極端に減っている現状がある。こういったことは、他の地域でもあるような気がする。ただ、これは学校の問題なのか、地域のまちづくりの問題なのかということもある。 会長：少しずれるが、甲賀市には企業誘致などのビジョンはあるのか。 事務局：都市計画マスタープランがあり、それぞれの地域でという
--	---

	発展を目指すということを示している。 会長：計画として、具体的に企業誘致をこうするとか、商業地を作るとか、そういったイメージを描いたビジョンを市が持っているかと思って聞いた。 会長：資料２の９ページに小中一貫教育が書かれているが、信楽中学校区に保幼小中一貫校を作るといような、地域の名称を含めた文言を入れるかどうか。入れるべきだと考えている。甲賀市の教育ビジョンを具体化する学校を作る、保幼小中一貫校を作る。土山でも作る。２か所くらい具体名を出した文言を入れるべきと考えるが皆さんどうか。 委員：資料３の令和１２年の児童数を見ても、土山地域は１８３人、信楽地域は２１９人となっている。将来展望として、土山、信楽地域については、統合したとしてもなお、児童数は少ないという状況が分かっているため、さらに先を見据えて行政的な手立てが必要ではないか。 会長：信楽中学校区で５つが一つになる統合校ができたとしても学校がなくなるわけではない。地域の学習の場として学校を残すことを書く。学校を残すことは大変で、維持費用は掛かるが必要なことと考える。 会長：信楽中学校区、土山中学校区では小中一貫校を推進し、新しい学校教育を実現していく。他の学校区については、その学校の成果を見て、判断していく。 委員：信楽小学校建て替えの設計上、例えば、５つの小学校のこどもが集まっても入れるのか。 事務局：入ることは可能です。 会長：土山では学校の建て替えの計画はあるのか。 事務局：土山中学校において、令和４年から施設長寿命化の改修を行っている。 委員：土山の保護者は中学校に行って１クラスの中学校になることへの不安を持っている。資料３は小学校の児童数しか出ていないので、中学校の生徒数もあった方が良くと思う。 会長：５－４制をすればどうか。６年生は中学校に行き、４学年で勉強する。児童数の減少だけで統合するのではなく、教育の中身を変えていくことをしないとイケない。６年生で定期考査を入れる。それにより、勉強の仕方を学ぶ。部活も一緒にする。そういう提案があるということを書いてほしい。 会長：施設一体型、分離型とあるが、小学校は５年生まで、中学校で
--	--

	は6年生から学ぶ、そういった可能性があることを書いてほしい。小中一貫教育の提案を入れていきたい。 委員：そういう場合の小学校の卒業式はどうされているのか。 会長：9年制の学校となるので、6年生の卒業式はない。卒業式は簡単に廃止できないが、課程修了式を1日行うだけ。卒業式の準備や予行演習などで、時間を費やすが、卒業式がなくなること、学び直しの時間を確保することができる。そういうメリットも大きく、学校行事の再編にも繋がる。 委員：学校統合の施設に関して、学校の統合と学校施設の利活用は両車輪だと当時話をしていた。公共施設を何%減少させるなどの計画も甲賀市にもあると思うが、外郭団体や民間企業が活用し、全部市の負担になるようなことはない方法もあった。 会長：学校が小規模になり、統合し施設一体型にするという発想は実はだめ。小中一貫教育に隠れて学校再編をしていると批判される。甲賀市の新しい義務教育を構想して、そこから学校を作り直していく。小学校、中学校でなく、15歳の子ども像を共有して、小・中の教職員が協力して、新しい学校教育を作っていく。それが小中一貫教育。甲賀市は新しい教育を展開するために、学校を再編しているということがわかる文章を答申に入れたい。 委員：再編計画という名前はもう変えられないのか。再編計画と言うと今の甲賀市では「統廃合」と捉えられてしまう。 委員：学校教育の審議会だが、社会教育、生涯学習に繋がるように考えるべきと思うが、甲賀市の小学校、中学校で学び、人が甲賀市でどう生きたいか、どう生活したいかが具体的に変わったほうが、甲賀市に定着してくれる。そういう人を育てないと甲賀市の人口は減っていく。魅力的なシステムの1つとして学校教育が考えられないか。縦のつながりを見据えた学校教育ができないか。 会長：甲賀市で生まれ育ち、甲賀をよく知り、世界にも目を向けられる人を育てることが学校教育の課題。どこにいても甲賀を語れる人を育てる。そういうビジョンを書いてほしい。 (4) 次回審議会について 12月3日(火)とする。
10. その他	